

1984, Toshio Senoh leg.; 1♂1♀, ditto, 1. VII. 1984, Shusei Saito leg. (筆者保管).

分布：日本（対馬）；東ロシア（東シベリア，極東ロシア），中国東部，モンゴル，大韓民国.

#### 引用文献

Gyllenhal, L., 1817. In: Schönherr, C.J. (ed.): Appendix ad C. J. Schönherr Synonymiam Insetorum Tom. I. Part. 3.

Sistens descriptiones novarum specierum. Scaris: Officina Lewerentziana, 1817. 266 pp., pls. 5–6.

Mannerheim, C. G. von, 1852. Insectes coléoptères de la Sibérie orientale, nouveaux ou peu connus. Decades tertia, quarta et quinta. Bulletin de la Société Impériale des Naturalistes de Moscou, 25(2) [1853–1854]: 273–309.

Suzuki, W., 2013. Two replacement names in the genus *Ampedus* (Coleoptera: Elateridae). Elytra, Tokyo, New Series, 3: 21.

(2016年6月6日受領, 2016年9月23日受理)

#### 【短報】滋賀県におけるヒメコガシラミズムシの採集記録

滋賀県におけるヒメコガシラミズムシ *Haliphus ovalis* Sharp, 1884 のこれまでの記録は，クロホシコガシラミズムシ *H. basinotatus* Zimmermann, 1924 の誤同定であったと判明している（村上・中西, 2016）. 筆者は，滋賀県南部において真のヒメコガシラミズムシを採集したので報告する. これにより滋賀県に産するヒメコガシラミズムシ属は5種となった.

7exs., 滋賀県大津市, 19-IX-2016, 村上大介採集・保管 (図1).

採集地は，低山地と住宅地に挟まれた溜池である. 水域内の植生は乏しく，堤体はコンクリートで護岸されている. 一部の岸辺に浅場があり，そこでヒメコガシラミズムシを20個体ほど確認した. この浅場では水中にニッポンイヌノヒゲ *Eriocaulon hondoense* が繁茂しており，ヒメコガシラミズムシ属の幼虫の食草とされるシャジクモ科 Characeae もわずかに生育していた. なお，アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* を複数個体確認しており，水生昆虫への悪影響が懸念される.

この溜池は滋賀県で唯一知られるキイロコガシラミズムシ *H. eximius* Clark, 1863 の生息地であるが（村上・中西, 2016），今回キイロコガシラミズムシは数個体しか確認できなかった. ヒメコガシラミズムシ，キイロコガシラミズムシともに今後の生息状況の変化に注意したい. また，周辺地域における両種の分布状況の把握が望まれる.

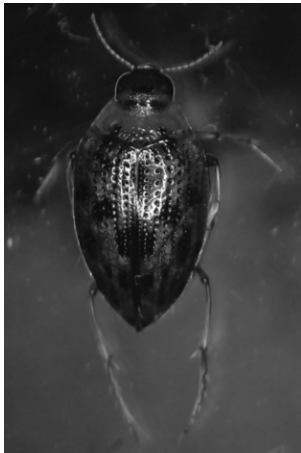


図1. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ.

株式会社ラーゴの平野達好氏に採集地に生育していた水生植物を同定して頂いた. 文末であるが御礼申し上げる.

#### 引用文献

村上大介・中西康介, 2016. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ属について. さやばねニューシリーズ, (22): 23–26.

(村上大介 gynacantha\_japonica@live.jp)

#### 【短報】クシヒゲクロツツコメツキの雄の記録

日本におけるクシヒゲクロツツコメツキ *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir, 1875) の記録は，中根 (1978)，と鈴木 (2016) の2例があるが，いずれも雌で，国内からの雄の記録はなかった. 筆者は，大桃定洋博士からいただいたコメツキムシ類の標本の中に，本種の雄個体を見いだすことができたので，ここに記録しておきたい.

本報告をするにあたり，貴重な標本をご提供いただいた，大桃定洋博士，採集された高橋敬一博士に厚くお礼申し上げます.

1♂, 沖縄県石垣島, 6-7. VIII. 1998, K. Takahashi leg.

雄は雌に酷似するが，触角第4節～10節の分枝はより細長く，第4節の幹部と分枝を合わせた長さは，第2節と3節の合計の2.4倍（雌は1.7倍）であること（Fig. 1参照），前胸背板基部中央部は

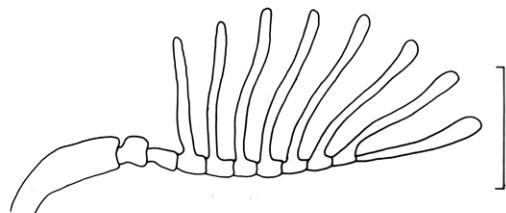


Fig. 1. Right antenna of *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) from Ishigaki-jima Island, southwest Japan, ♂. Scale: 0.5mm.

より強く膨隆すること、基部中央の縦溝はより深いこと、腹部第3・4節の点刻はより深く、明瞭で、黄白色の長毛を密生することなどにより本種と識別できる。

#### 引用文献

- 中根猛彦, 1978. 日本に記録のコメツキダマシの1種. 北九州の昆虫, 34: 138.  
鈴木 互, 2016. 石垣島で採集されたクシヒゲクロツツコメツキについて. さやばねニューシリーズ, (21): 28-30.

(鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1  
法政大学第二高等学校 生物科)

#### 【短報】香川県のマメクワガタの記録

マメクワガタ *Figulus punctatus* Waterhouse は、日本海流によって分布を拡大したと考えられる種である(岡島・荒谷, 2012)。瀬戸内海沿岸の記録は非常に少なく、紀伊水道、豊後水道以北では、愛媛県二神島(山岡, 2000)、兵庫県家島(楠井, 1992)の記録しかない。香川県産コガネムシ上科をまとめた三木(2007)のリストにも本種は掲載されておらず、香川県未記録種と考えられる。筆者は、香川県で得られた本種の標本を所有しているので、記録を報告する。

lex., 香川県琴平町象頭山, II. 1986, 三宅武採集(図1)

採集者である三宅武氏に当時の状況を伺ったところ、「日付は覚えていないが、1986年2月のある日に金比羅神社参道の石段を少し登って左の山道を登り、道脇のやや古い倒木をナイフで削って掘り



図1. 香川県産マメクワガタ。

出した。時間がなく、1頭だけの採集だった」とのことであった。象頭山(琴平山)は、香川県内で最も広範囲に照葉樹林が残された地域であり、甲虫相の調査も1970年代から行われているが、これまで同属のチビクワガタ *Figulus binodulus* Waterhouse しか記録されておらず(佐藤, 1975など)、本種の個体密度は低いものと思われる。なお、チビクワガタは県内の平地から低山地にかけて広範囲に記録され

ており(佐野, 1991など)、朽ち木採集だけでなく、灯台下でも比較的普通に採集できる。

今後、瀬戸内海沿岸も、社寺林や海岸林の調査で、新産地の発見が期待される。既に故・高橋寿郎氏が、「瀬戸内の島々に分布している可能性も高い」と述べているが(兵庫昆虫同好会編, 2000)、家島から比較的近い小豆島など、今後の調査による発見が期待される島も多い。今回記録された象頭山からの再発見も期待されるが、当地はその大部分が「こんぴらさん」として有名な金刀比羅宮の敷地となっているため、神社側の許可を得て、景観に配慮した調査を行うべきである。

末筆ながら、貴重な標本を筆者に恵まれ発表を快諾いただき、種々のご教示をいただいた大分県の三宅武氏、文献入手にあたってお世話になった久末遊氏、楠井善久氏、吉富博之博士に厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 兵庫昆虫同好会編, 2000. 兵庫県のクワガタムシ(1)故高橋寿郎氏遺稿集 No.1. きべりはむし, 28(1): 3-11.  
楠井善久, 1992. 家島(兵庫県)のコガネムシ上科. LAMELLICORNIA, 8: 19-21.  
三木武司, 2007. 香川県のコガネムシ上科甲虫. 香川の生物, (34): 41-54.  
岡島秀治・荒谷邦雄監修, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444 pp., 学研教育出版.  
佐野信雄, 1991. チビクワガタの一生態と県下での分布. へりぐろ, (12): 32-33.  
佐藤正昭, 1975. 香川県象頭山の甲虫類(2). 月刊むし, (47): 30-33.  
山岡幸雄, 2000. 瀬戸内島嶼二神島にマメクワガタ産す. 愛媛の虫だより, (92): 15.

(藤本博文 760-0005 高松市宮脇町1丁目17-4)